

まがり還し

間借り・曲がり

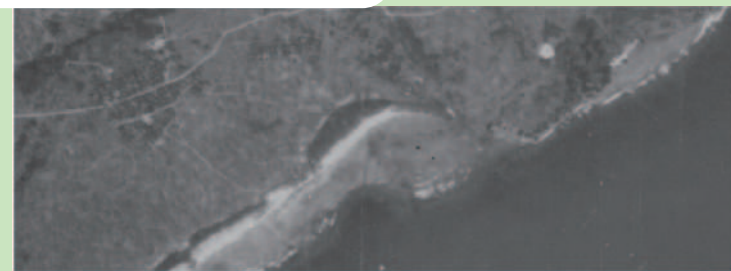


私たちは生活のために自然のあり方を変えてきた。拓いた場所を少しずつ自然に還すことでは出来ないだろうか。人々と自然の交差するこの空白に、「人々の生活」と「自然の回復」の共存を考えた「まがり還し」の休憩所を提案する。

問題提起

大度浜海岸は、沖縄有数の自然海岸である。目の前に広がるイノーには様々な生物が生息し、海亀が産卵に訪れ、野鳥が羽を休めに来る場所である。自然豊かなありのままの沖縄の姿を現在も色濃く残す貴重な海岸であると考えられる。このような自然に溢れる土地で、人の営みにより不自然に拓かれた地を少しずつ自然に還すことはできないだろうか。

空白地帯



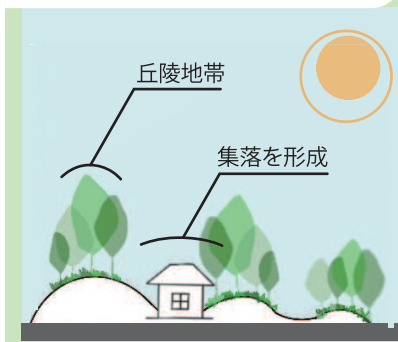
1944年の航空写真の防風林が海沿いに生い茂る様子
1977年には、防風林が切り開かれ現在の休憩所が建設されていた。

生命の力



わずかな隙間にも芽を出す植物には、生命の力を感じる。
この生命の力が大地を形成し自然のあるべき姿に回帰させる。

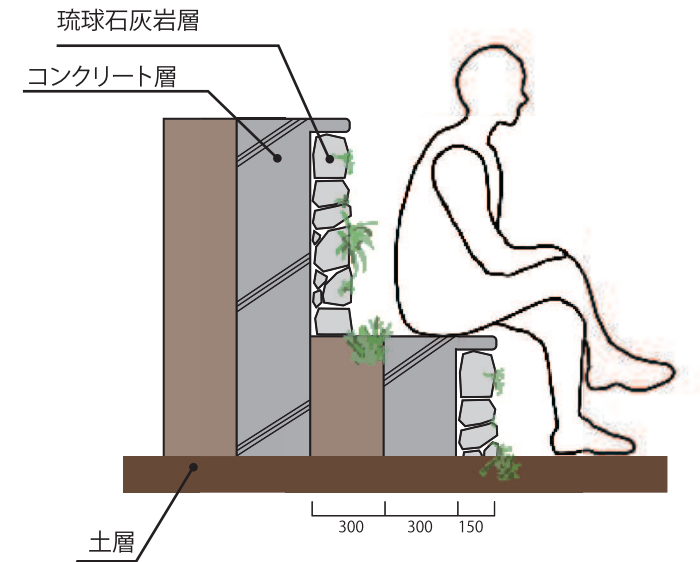
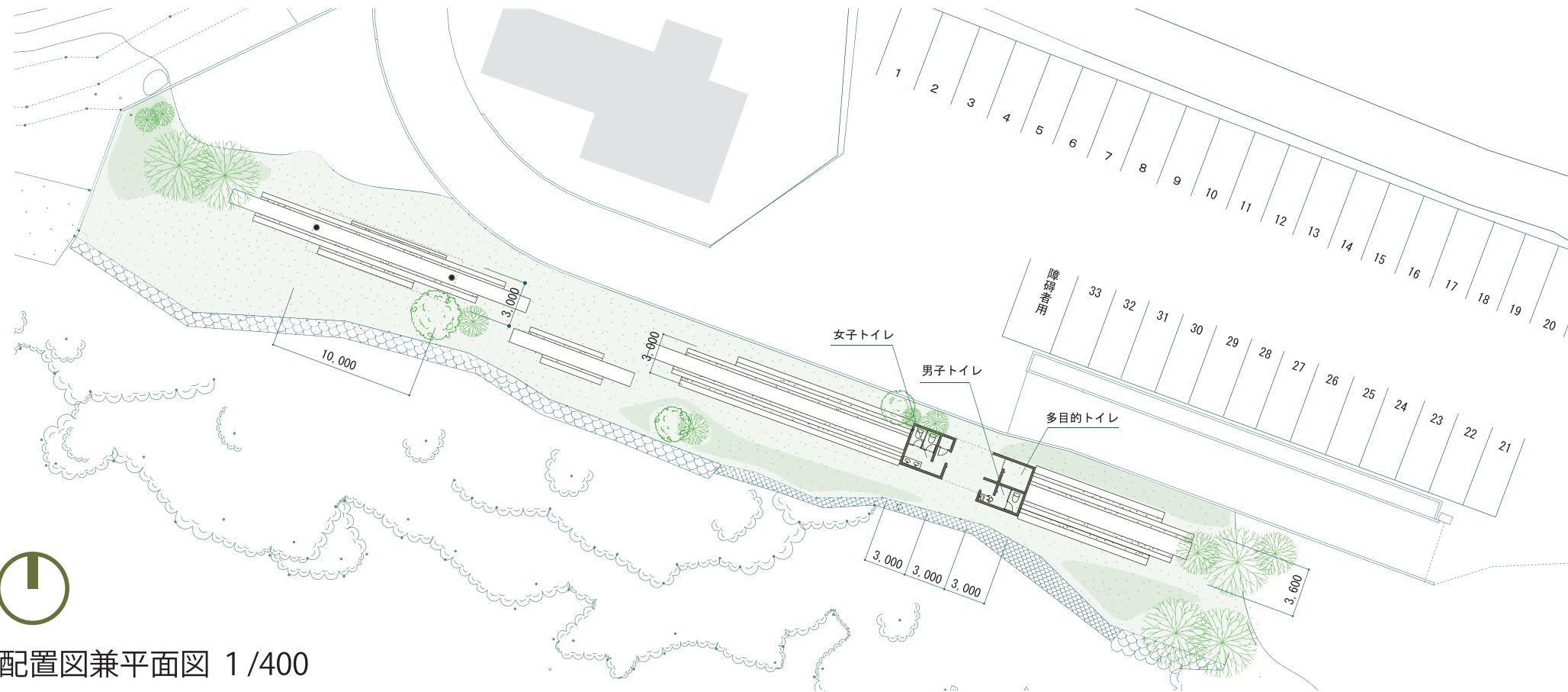
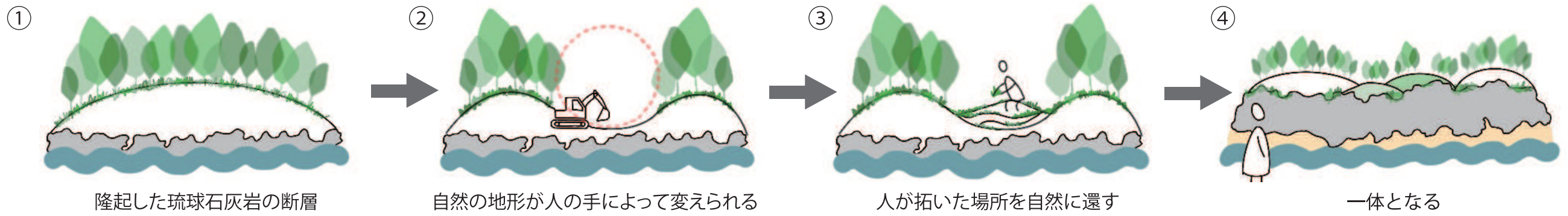
丘陵 -糸満の地形-



琉球石灰岩が断層をなして隆起し、複数の丘陵地形形成されている。断層の間の平坦地に集落が形成され、このような丘や森が、人間の生活域を抱きかかえるようにして護っている。

参考：地域に根差した参加型環境保全・改善システムの研究

ダイアグラム



腰掛ける場所や、階段として用いられる踏面部分は、土層、コンクリート層、琉球石灰岩層の3層から成っている。土層は雨水を地へと返し、琉球石灰岩層は、時間の経過により自然との共存を可能にする。



配置図兼平面図 1/400

